

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	中国の国家EIAと地方EIAの比較分析
Title(English)	Comparative Analysis of Environmental Impact Assessment in China between National and Provincial Levels
著者(和文)	XUJIAYING
Author(English)	Jiaying Xu
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第11555号, 授与年月日:2020年6月30日, 学位の種別:課程博士, 審査員:村山 武彦,木内 豪,佐藤 由利子,錦澤 滋雄,時松 宏治,青柳 みどり
Citation(English)	Degree:Doctor (Engineering), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第11555号, Conferred date:2020/6/30, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	審査の要旨
Type(English)	Exam Summary

論文審査の要旨及び審査員

報告番号	甲第	号	学位申請者氏名	Jiaying Xu	
論文審査 審査員		氏 名	職 名	氏 名	職 名
	主査	村山 武彦	教授	時松 宏治	准教授
	審査員	木内 豪	教授	青柳 みどり	特定教授
		佐藤 由利子	准教授		
		錦澤 滋雄	准教授		

論文審査の要旨 (2000 字程度)

本論文は、「Comparative Analysis of Environmental Impact Assessment in China between National and Provincial Level」と題し、全5章からなる。

第1章「Introduction」では、環境アセスメント制度が様々な国で導入され、中国においても1980年代から同制度を試行的に導入し2003年に法制化された後、中央政府と地方制度のレベルで本格的に実施されている一方で、同制度の具体的な適用状況の把握や評価書の質の向上が課題となっていることを示している。そのうえで、本論文の目的として、中国で実施されている個々の事業に対する環境影響評価書の内容を分析することにより、国レベルと地方レベルで実施されている環境アセスメントの特徴を明らかにすることを挙げている。

第2章「Research Methodology」では、まず中国における環境アセスメント制度の歴史的な経緯を整理したうえで、同制度によって実施される環境アセスメントの報告書で用いられる3種類のカテゴリー、適用される事業区分、関連する法制度やガイドラインの概要などをまとめている。次に、同国の環境アセスメントに関する既往研究を整理した結果、制度紹介や事例分析がほとんどで個々の事業を対象とした傾向分析がみられないことを示している。そのうえで、本論文で扱う対象として、国レベルとともに、地方レベルの事例として1省2市（広東省、重慶市、上海市）を選定し、個々の事業で扱われている代替案、評価項目、個々の評価項目に対する影響度合いの事前評価（assessment magnitude）の観点から分析を行うことを示している。

第3章「Quantitative and Content Analysis of National EIA in China」では、中国で実施されてきた国レベルの環境アセスメントの内容分析を行っている。まず、1999年以降の適用事例の時系列の変動や地域間の差異を把握したうえで、2014年から2018年の5年間にフルスケールの環境アセスメントが実施された461件の報告書を対象に内容分析を行っている。その結果として、約半数の事業で代替案が設定されておらず、代替案が1か2ある事業は各々2割程度であること、運輸部門と化学産業部門の事業を対象に評価項目を分析した結果、環境汚染項目やリスク、生態系といった項目はほとんどの事業で対象となっている一方、社会環境を対象にした事業は約半数であり、景観については1割以下であったとしている。さらに、assessment magnitudeについては騒音や生態系で運輸部門の評価が高く、リスクや地下水汚染で化学産業部門の評価が高くなっており、社会環境や景観の評価はいずれも最も低くなっていることを示している。この結果から、assessment magnitudeの評価が低い場合でも評価項目として選定されている場合が少なくないことが示されたとしている。

第4章「Content analysis: alternative analysis/ assessment item analysis/ assessment magnitude analysis/ (national level and provincial level)」では、本論文で対象としている地方レベルの3事例について、2014年から2018年の5年間の報告書の情報を収集し、国レベルの結果と比較する形で分析を進めている。対象としたフルスケールの報告書は、広東省344、重慶市214、上海市257である。分析の結果、代替案の分析では、地方レベルでは約8割が代替案の設定がなされておらず、1か2の代替案を設定している事業も合計で17%程度に留まっていることを示している。さらに、運輸部門と化学産業部門の事業を対象に選定された評価項目を比較した結果、運輸部門では土壌汚染や電磁波などの項目で国レベルの方が選定されている割合が高くなっていること、化学産業部門では生態系、社会環境、電磁波、土壌汚染などの項目で国レベルの方が選定されている割合が高くなっていること示している。assessment magnitudeについては、多くの項目で国レベルの報告書における評価が高くなっている傾向があったことを示している。以上のことから、国レベルの方が総じて充実したアセスメントを行っていることを明らかにしている。

第5章「Conclusions and Recommendations」では、各章のまとめを行い、結論を示している。

以上要するに、本研究は、中国において実施されている環境アセスメントの報告書を対象に内容分析し、国レベルと地方レベルの報告書の比較を通じて、同国で実施されている環境アセスメントの特徴を実証的に明らかにしたもので、環境計画・政策分野上の学術的な貢献が大きい。よって、博士（工学）に値するものと認める。

注意：「論文審査の要旨及び審査員」は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。